

人間社会学部

試験問題冊子

(A日程 1月28日)

国語

注 意

- ① 試験監督者の指示があるまで、問題冊子を開かないこと。
- ② 問題冊子に落丁、乱丁があった場合は、試験監督者に申し出ること。
- ③ 試験監督者が試験開始の指示をしたら、ただちに解答用紙の所定欄に、受験番号を記入し、マークすること。
- ④ 解答は全て解答用紙に記入すること。
- ⑤ マーク式解答欄および裏面の記述式解答欄の指定された箇所以外は使用しないこと。
- ⑥ 試験終了後、問題冊子は持ち帰ること。

注意 解答はすべて各問の下端の 内に指示された解答欄にマークまたは記入すること。なお、解答欄のうち、この試験で使うのは、マーク式解答欄の 1 ～ 18、記述式解答欄の A ～ J のみである。

問題一 次の文章を読んで、後の設問に答えなさい。

なぜ僕らはこれほどまでに生きづらいのだろうか？

ひとは日々、人間関係に悩み、自身の健康を気に病み、将来に対するバクゼン¹とした不安を抱え、過去の恋愛や性に関する傷を抱えています。

僕らサピエンスという種はこの環境に適応していないように見える。精神と社会とのミスマッチがあるように思えます。

精神科医アンデシュ・ハンセンのベストセラー『スマホ脳』に次のような思考実験があります。10万年前サバンナに生きていた2人の女性を登場させます。カーリンとマリアの2人。カーリンは高カロリーの甘い果実が実る木の前へやってくると、1個だけ食べて満足する。次の日また食べようとその木の前へやってくるが、他の誰かが全部食べてしまっていた。一方、マリアは甘味を認識する遺伝子に突然変異が起き、甘い果実を食べると脳内でドーパミンが大量にブンピツ²される。ドーパミンの効果によって、マリアは目の前の木の実を全部食べたいという強い欲求を持つことになる。それゆえ彼女はその甘い実を食べられるだけ食べてからその場を去る。翌日、また食べたくなって木の下へやってきたが、カーリン^①の時と同様にもう木の実が残ってはいなかった。

生き延びる確率が高いのはマリアだ^②ということは、わけなくスイソク³できるだろう。消費しきれないカロリーは脂肪として腹部に蓄積され、食べられる物が見つからないときにその人を餓死から守ってくれる。そうすると、子を産み遺伝子を残す可能性が上がる。このカロリー欲求は遺伝子のせいなので、その特質は次の世代にも受け継がれ、その世代も生き延びて子を産むことが容易になる。そこに、環境における要因も関わってくる。強いカロリー欲求を持った子供が徐々に増え、生き延びる可能性が高くなる。何千年か経つ頃には、カロリーへの欲求はゆつくりと確実に、その人たちの間で一般的な性質になっていく。

そして、ハンセンは今度はカーリンとマリアの2人を現代社会に登場させる。カーリンはマクドナルドでハンバーガー1個を食べ、それで満足し、店を出ていく。それに対し、マリアはハンバーガーだけでなく、サイドメニューも飲み物もデザートも全て注文し、それを平らげてからようやく店を後にする。次の日も、aに導かれて、同じ店にやってきたマリア^③は、前日と同じように大量の食料を摂取することになる。

数カ月経つと、暴食がマリアの身体を蝕み始める。余分な体重が何キロも増えただけでなく、2型糖尿病も発症した。彼女の身体は著しく高い血糖値に耐えられなくなっている。これでカーリンとマリアは立場が逆になった。サバンナでは生き延

びるのを助けてくれたカロリー欲求だが、現代社会には適していない。人類の歴史の99・9%の期間、私たちの生存を維持してきた生物学的なメカニズムが、突如として益よりも害を引き起こすようになったのだ。

さて、ここで鍵になるのは「進化的適応環境EEA」という概念です。EEAとは、われわれヒトコウウの適応が進化した舞台であった環境のことです。先の例で言えば、カーリンとマリアが元々いた10万年前のサバンナなどの環境のことです。進化生物学、進化心理学において、論者や文献によって揺れはありますが、サピエンスのEEAは具体的には数百万年前、数万年前までの環境を指します。少なくとも見積もっても、1万年前までの環境がEEAと呼ばれる環境です。

お分かりでしょうか。

僕らの身体も精神も、現代の社会環境に適応していません。

僕らの身体と精神は、いまだに数万年前の環境にフィットしたまま今日に至っている。ミスマッチ――。

進化の歴史の中で獲得した身体的特徴および心的特徴と、現代社会という環境のミスマッチが起こっているのです。その一つの事例が、先のマリアが置かれた状態でした。何を「美味しいと感じる」のかも、何を「いい匂いと感じる」のかも、かつてのサバンナではそのような遺伝的性質を持った個体の方が生き延びやすかったがゆえに獲得されてきたのです。飢餓が身近であった数万年前までの環境では、糖質と塩分と脂質に対する強い嗜好が適応的だったわけです。言い換えれば、数万年前の環境において僕らを生かしてくれていたさまざまな形質の名残りを、現在も持っていてしまっているということです。

b、もう一つの例を挙げます。

なぜひとは、不合理なまでに髪にこだわるのか？　なぜ髪型が思った通りにならないかったくらいのことであれほどまでに落ち込み、逆に好みの髪型やイメージ通りの髪型にカットしてもらえた時には気分が良くなるのか？

ポルトガル語に「カフネ」という語があります。これは「愛しい人の髪に指を通す仕草」の意です。文化圏も異なりますし、そもそもポルトガル語を話さない僕らでも、この語が親愛を込めた美しい表現であることは分かるはずです。大切な人の髪に触れ、髪に指を通し、瞳を見つめる。友人という関係よりも深い、恋人同士や小さな我が子に対する仕草です。

なぜそのような、他者との関係性において決定的と思われる場面で、頭部にある単なるタンパク質の束が重要な役回りを担うのか。なぜ、僕らの精神は、約十萬本あるタンパク質の束を愛おしく思うのか？　タンパク質の塊がなぜロマンティックな文脈を引き受けるのか？

進化論的な仮説、理由はこうです。

EEAにおいて、サピエンスたちは潜在的な配偶者、すなわち恋愛のパートナーが若く、なおかつ健康であるか否かを髪質というシグナルによって把握していたから――。

男女を問わず、健康な人の髪はつやつやしている。病弱な人の髪にはつやがない。病気になる、体は手もとにある、あらゆる栄養素（鉄分、タンパク質など）を病原体との闘いに動員しようとする。髪は生存にフカケツ⁵なものではないので、体は真つ先に髪から必要な栄養をとる。このため、健康かどうかは真つ先に髪の状態にあらわれる。

さらに、髪は一年で一五センチくらいのペースでゆっくり伸びる。ということは、背中まで垂れた髪（六〇センチくらいの長さ）には、過去四年間の健康状態があらわれることになる。

よくよく考えてみれば、進化的適応環境では、相手の年齢どころか自分の年齢もよくわかっていません。そもそも暦がまだありませんから。当然、病院も健康診断もありませんから、本人に自覚的な症状以外の身体的状態を把握するために、髪によるシグナルを利用した、という仮説は確かに筋が通ります。そして、そうだとすれば、かつてのEEAの名残りとして、特に思春期において、急に髪型を気にし始め、髪を手入れし始め、毎朝ただ学校にいくだけにもかかわらず、髪型を整えるようになる若いサピエンスの奇習も納得できるものになります。

現代の僕らは、数万年前の進化的適応環境EEAでの、有形無形の名残りを携えてしまっている。そして、その身体的、心理的特徴は現代の環境では必ずしも合理的な効果を生じさせない。むしろ、先のカーリン^⑤のように、不適応を起こしかねない。

さて、一つ疑問に思ったかもしれません。

なぜEEAは現代まで延長されておらず、長くとも現在から1万年前までとなっていないのか、と。

ポイントは、進化の速度です。

1000世代。

身体のある解剖学的構造や形質、つまり身体的あるいは心理的・認知的特徴を、人為的でない形の通常の自然選択によって、その種全体が獲得するまでに、何世代くらい必要かという、1000世代程度という見積もりがあります。あるキリンの個体が突然変異でその首が長くなってから、キリンという種全体の首が長くなるまで少なくとも1000世代かかり、ビーバーがダムを作るようになるまでも1000世代かかるという事です。

①

〈中略〉

さて、では、僕らサピエンスがこの現代のさまざまなテクノロジーと多様性に囲まれた都市環境に適応するまでに、どれくらいかかるでしょうか。たとえば、Googleカレンダーなしに生活できるほど記憶容量が増えるようになるには？ SNSに適応的な精神構造を獲得するまでには？ 健康上適切な食欲を持つようになるには？

②

サピエンスの1世代を仮に25年とすると、25年×1000世代＝2万5000年（ちなみに英語で generation は30年のことです。そうだとすると3万年かかります）。

どれほど少なく見積もっても、c はかかるのです（そして、そのような形質をもった個体が生存と繁殖において、他の個体群より優位でなければ、進化のメカニズム

は発動しません)。そして、農耕が始まったとされるのがだいたい1万年前です。つまり、僕らの生活環境が都市化していき、共同体の規模が大きくなり、分業を前提とした社会すなわち文明と呼ばれるものの中で暮らすようになってからまだ数千年です。

③

言い換えれば、僕らの身体、脳、精神は数万年前の環境を生き延びるために獲得された状態のままなのです。なぜなら、数百年、数千年スパンでは進化する余地がないからです。

④

数百万年前から数万年前までの自然環境。

僕らの心はそこで生まれた。

生存の危険に満ちたサバンナで、僕らの心は生まれた。

その心理的傾向、認知的特徴が現代では「認知的バイアス」と呼ばれます。例えば、「みんな」や「いつも」という表現を僕らが思わず使ってしまうのは、「3人」、「3回」です(池谷裕二『自分では気づかない、ココロの盲点 完全版』。「私の友達はみんな喫煙者だ」とか「君はいつも眠たそうだね」と一般化するのに必要な目撃回数は3回だといえます。現代においては、そのようなたった三つのサンプルを元にした、「みんな」「いつも」とすべてがそうであるという認知は確かに偏見であり、思い込みにすぎませんが、数万年前のサバンナではたとえば仲間がある色のへびに噛まれて亡くなったとしたら、科学的な観察や実験をすることなく、3回程度観測した時点で「この色のへびは危険である」と思い込む個体の方が適応的でしょう。つまり、都市環境では偏見、思い込みになってしまいう認知的バイアスも、かつての危険に満ちた環境では僕らを生かしてくれたのです。認知的バイアスは、まさに、太古的な環境では適応的だったが、現代的な都市生活においては不適応となる最たる例です。

⑤

農耕がはじまってからのたった1万年のあいだに、サピエンスたちは遠くまで歩いてしまった。EEAでは適応的だったさまざまな行動パターン、認知の枠組み、心のメカニズムが不適応な形質となってしまったのです。僕らが進化するよりも早く、制度とテクノロジーが進歩してしまうから。

環境とのミスマッチ。

それゆえ、僕らの心は^注バグを抱え込むことになった。というよりも、サピエンスという存在自体が、進化というメカニズムにとってバグなのです。

環境に適応できない、出来損ないの種。傷を抱えた動物。

生物学者のエドワード・O・ウィルソンは人間という存在を次のように端的に表現しています。

われわれは、石器時代からの感情と、中世からの社会システムと、神のごときテクノロジーをもつ

見事な要約だと思います。

身体と心、制度やシステム、そしてテクノロジー。

この三つが見事にズレている。それぞれがもつ、生理的時間、進展のタイムスパンがあまりにもちぐはぐなのです。

身体と心…数万年（数千世代）
制度、社会システム…数百年（数十世代）
テクノロジー…十年～数年（一世代！）

数年単位で進歩するテクノロジーに促され、数百年かけて社会システムは変化する。
僕らの精神を置いてけぼりにしながら。

（近内 悠太『利他・ケア・傷の倫理学』）

注…バグ 不具合

問1 傍線部1～5のカタカナを漢字に直して、それぞれ記述式解答欄に記入しなさい。

1 A2B3C4D5E

問2 傍線部ア「カーリンとマリアの2人」とあるが、本文中の二重傍線部①～⑤のカーリンとマリアの中から、2人が入れ替わっている（逆になっている）ものを一つ選びなさい。

1

問3 空欄 a に当てはまる語として最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選びなさい。

2

- ① カロリー
- ② メカニズム
- ③ ドーパミン
- ④ ハンバーガー
- ⑤ サイドメニュー

問4 傍線部イ「生物的なメカニズム」のここでの意味として最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選びなさい。

3

- ① 食欲という無限の欲求を、理性でコントロールしようとする生物的な仕組み
- ② 精神と社会とのミスマッチを、自発的に乗り越えて行こうとする精神的構造
- ③ 強いカロリーへの欲求を、子孫の繁栄のためにはよくないと判断できる倫理
- ④ 生き延びる可能性を高める、一般的な性質となっていたカロリーへの欲求
- ⑤ 子を産み育てることが女性の使命だと考えるような、封建的な社会システム

問5 空欄 に当てはまる語句として最も適切なものを、次の①～④の中から一つ選びなさい。

- ① 進化的適応環境においては合理的だったものが、現代においては必ずしも合理的でない
- ② 現代においては合理的になったものが、進化的適応環境においては合理的でなかった
- ③ 進化的適応環境においては不合理だったものが、現代においては合理的になってきた
- ④ 現代と進化的適応環境とに共通する、生物進化のメカニズムの身体的合理性として

問6 本文中の空欄 ～ のいずれかに次の一文が入る。この文が当てはまる最も適切な位置を、①～⑤の中から一つ選びなさい。

文Ⅱこれまで述べてきた「環境」というのはそういったものを指しています。

問7 空欄 に当てはまる語として最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選びなさい。

- ① 1世代
- ② 1万年
- ③ 数百年
- ④ 数千年
- ⑤ 3万年

問8 本文の内容に最も合致するものを、次の①～⑤の中から一つ選びなさい。

- ① 現代人である僕らの身体も精神も、1万年前までの環境、つまりE E Aに適応していないままである。
- ② カーリンが甘い果実を1個だけ食べて2個目を食べなかったのは、健康を考慮して我慢したからである。
- ③ マリアは甘味を認識する遺伝子に突然変異が起きたので、翌日も前日と同様に甘い実をたくさん食べた。
- ④ 僕らの身体と精神はE E Aの時代と大きく変化していないが、制度とテクノロジーの変化は急激である。
- ⑤ 生存のために絶対に必要というわけではない「髪」にこだわるのは、髪が美しさの象徴だからである。

問題二 次の文章を読んで、後の設問に答えなさい。

I

鮮やかな白と黒に彩られた美しく清らかな巨体のシャチという鯨類は、多くの人を魅了して止まない。日本一といつていいほどに魅了された一人が、写真家・科学ジャーナリストの水口博也氏であろう。一九七八年から四六年間！にわたり世界を巡ってシャチを追い続け、シャチという動物そのものとその研究の足跡を世界でもっともよく知る人物の一人である。

一〇冊を超える水口氏のシャチに関する著作は『オルカ——海の王シャチと風の物語』でスタートを切る。調査フィールドで動物を生で観察した者にしか書けない詳細でいきいきした報告、そして、強い忍耐力と確かな技術によって撮られたみごとに生態写真の数々は、シャチはおろか野生の鯨類を一頭も観たことがなく、京大サル学を学んでいた大学一回生の私に、鯨類を研究せねばという衝動を与えてくれた。しかし、『オルカ——海の王シャチと風の物語』の上梓¹からはどなく、人間の活動がシャチに与える悪影響が深刻化し、水口氏は撮影・取材スタイルを自ら変えていく。

II

そうした悪影響で、まず人々が懸念²したのは、映画『フリー・ウィリー』シリーズや、実際にそのモチーフとなったシャチであるケイコを自然へもどす活動に象徴されるような飼育個体の福祉の問題であった。しかし、この問題はじつは決着がついている。シャチの飼育を六〇年前に開始したアメリカ・カナダなどでは、飼育下において彼らの生を全うし幸福を保てる技術が確立したから……いや、残念ながら逆で、確立しなかったからである。ヒトには飼えない動物であり、もう飼育を止めよう、という選択肢が選ばれたのである。飼育シャチの問題は解決されたのではなく、問題そのものが存在しなくなるのだ。

並行して、野生のシャチたちに対しても、人間の活動、具体的には観光の過多の影響が表面化してくる。野生のシャチを間近で観たいという人が増え、観光船が増え、シャチの暮らしに悪影響が顕れはじめたのである。

観察を続けてきたカナダ・ジョンストン海峡のシャチたちでそうした環境問題を目の当たりにしてきた水口氏は、『オルカアゲイン』で「押し寄せるツーリストの波のなかでいま僕自身にできることといえば、おそらくは海峡から自分のボートだけでもなくすることなのだろう」とけじめをつけ、本書を「留別^注の書」と称した。

その後、水口氏はおもに研究者を頼って世界のシャチの調査地を巡り、次々に報告される学術論文を精読し、幅広くシャチという動物の理解を深めていき、昨年九月、現在のシャチの研究や現状を網羅³し自分の経験・観察も盛り込んだ決定版とも呼べる著作『シャチ——オルカ研究全史』（東京大学出版会、二〇二四年）を上梓することになる。添えられた引用文献が二〇〇を超える大著である。

III

観光過多などの環境問題は、じつは比較的ローカルな問題であり、ハラスメントの要

因を特定してしっかり取り除くことができれば、解消する問題のように思われる。しかし、そう一筋縄にはいかず、現代においてもまだ懸念が続いている。一例をあげるなら、ハワイでのハシナガイルカへのウォッチングであろうか。観光が与えるハラスメントに歯止めがかからず、アメリカ海洋大気庁によりルールが法制化されることになる。違反すれば犯罪者になるのである。この問題解消にじゃまになっているのは、「好き」という想いの性質や方向のまちがいに、私たち自身が気づきにくいためのようだ。

かつては捕鯨基地として栄えた小笠原を、鯨類のフィールド調査研究と観光の一大プラットフォームへとみごとに転向・発展させた森恭一氏は、こうした懸念がはじまった当初から国際会議などにも招かれ、さまざまな発言をしてきた。彼はこの問題の背後には他者理解の努力の欠如があるとつねづね指摘していた。

鯨類好きに限ったことではないのかもしれないが、好きになった対象（相手）を理解しようとし、な⁴さ⁵すぎる、というのである。「異質な他者に対して、心を閉ざしたり自分の一方的な想いを押し付けるのではなく、理解しあおうとすることが大切であり、それこそが生きていることそのものである」という趣旨のことを森氏は鯨類に接する後進たちに語り続けてきた。近くにいた私自身もよく耳にしたし、ときにその意識の低さや努力の欠如を叱責⁴されたこともある。森氏の夭逝⁵が悔やまれてならないが、彼の言葉を理解し行動に移す努力を続けることこそが、私たちヒトと鯨類の関係を持続可能なものへと高めるために私たちがとるべき基本姿勢であろう。

IV

少し本論からそれてしまいが、今、野生鯨類との距離があらためて見直される事件が国内で起きている。石川県から福井県の海岸に現れる噛みつきイルカと呼ばれるようになったオスのミナミハンドウイルカが存在である。

ここ数年、観光客に噛みついたり体当たりする害獣だと報ずる短絡的な記事や報道ばかり目にするが、それは浅すぎる。

なぜ彼が今のように振る舞うに至ったか、ヒトと野生動物が本来どのように付き合うべきであるのかを、彼と彼を取り巻いてきた人々がつくりだしてきた環境からしっかり学ばなければならない。a、そうした環境（雰囲気）を飼育や研究に関わるものが許してきたこと、ときに助長してきたことをしっかり自省し態度を改めなければならない。

朝日新聞記者の乗京真知氏の報告を読むと、ヒトの側から距離をつめてしまったことが、イルカに問題行動を起こさせ、イルカもヒトも傷つく結果を招いてきた過程がよくわかる。

彼の取材と探求を通して、ヒトと鯨類（野生動物）との距離の認識が、日本において一段上のステップにあがることを切に願う。

V

話をシャチにもどす。彼らをめぐる環境問題はここ数十年でさらに深刻さを増している。水口氏が『オルカアゲイン』を著した一九九一年には、b、ローカルな問題に増してグローバルな環境問題が押し寄せてきていた。一九九二年には生物多様性条約

が採択・署名され、c一九九七年に京都議定書が採択される。国や地域レベルでの対応では抑えることのできない、グローバルな環境破壊、環境汚染、温暖化、それにとまなう生物多様性の急速な消失が深刻化し、国際舞台において議論され、具体的な行動が求められはじめた時期なのである。

その「しっぺ返し」は、原因を起こしている私たちヒトに向かってきているだろうか。極端な暑さの続く夏、集中して降る雨、これまでと規模や時期やコースが違う台風……少しリアルさを増しているだろうか（私も含め、日本人は鈍感すぎるかもしれない）。

d、私たちへの「しっぺ返し」以上に「とばっちし」を食らってしまい、好適な生息場所が激減し、飢えが進み、汚染物質に侵され、子どもが産まれなくなっている野生動物たちが無数にいる。シャチも例外ではない。e、むしろこれらで苦しめられている野生動物の代表である。

私たちが環境にバラまいてしまっている重金属や残留性有機塩素化合物などを例にあげよう。これらは生物蓄積を通して、海の食物連鎖網の最高次にいるシャチにもっとも高濃度でたまっている。どの地域のシャチを調べても、それらの値は、がんや免疫異常を引き起こす値を超える。水口氏の著作へ愛媛大学の野見山桂氏が寄稿したレビューでもわかりやすく報じられている。

これらが原因で繁殖力を失った多くのシャチたちはどうなるのか。デンマークの Desforjes 博士らは、シミュレーションによる検討から、一〇〇年で絶滅に至るといふ背筋が寒くなる予測を報告している。

水口氏は『シャチ——オルカ研究全史』の最終章を「シャチに未来はあるか」と題し、そのなかで世界中のシャチたちが苦しんでいる様子を詳細に綴っている。一〇〇年を待たずに、すでに今現在、北米沿岸の南部レジデント群など、丸ごと消失の危機にある地域個体群の存在も紹介されている。

予測のまま進めば、この地球上でヒト以上に広範囲に生息してきた海洋生態系の王者の絶滅の瞬間を、その原因を起こしているヒト自身が見届ける日がくるのは避けられない。

（篠原 正典『UP』「人類はシャチの最期を見届けるのか」）

注…留別 りゅうべつ 去る者があとに残る者に別れを告げること

問1 空欄ⅠⅤにはそれぞれ、その後の文章の内容を端的に表す小題が入る。それぞれの小題として最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つずつ選びなさい。

- | | | | | | | | | | |
|---|--------------------|----|---|-----|----|----|----|---|----|
| I | 8 | II | 9 | III | 10 | IV | 11 | V | 12 |
| ① | 再考——ヒトと鯨類の距離 | | | | | | | | |
| ② | 自然からの「しつぺ返し」が向かう先に | | | | | | | | |
| ③ | シャチとの「留別の書」 | | | | | | | | |
| ④ | 大切なのは、理解しあおうとすること | | | | | | | | |
| ⑤ | 日本を代表するシャチ好き | | | | | | | | |

問2 傍線部1～5の漢字のよみをひらがなで、それぞれ記述式解答欄に記入しなさい。

- | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | F | 2 | G | 3 | H | 4 | I | 5 | J |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|

問3 傍線部Aにある次の①～④のシャチの描写の中から、最も客観的ではなく主観的な表現ととれるものを一つ選びなさい。

- | | | | |
|---|----------|---|---------|
| ① | 鮮やかな | ③ | 美しく清らかな |
| ② | 白と黒に彩られた | ④ | 巨体の |

問4 傍線部イ「撮影・取材スタイルを自ら変えていく」とあるが、水口氏はそのスタイルをどのように変えていったのか。最も適切なものを、次の①～④の中から一つ選びなさい。

- | | |
|---|------------------------------|
| ① | 海という調査フィールドに実際身を置いて、生で観察する方法 |
| ② | 観察するのではなく、生活を共にし、シャチと一体化する覚悟 |
| ③ | シャチに悪影響を与えないように、距離を置いて研究する姿勢 |
| ④ | 遠くから写真を撮るのではなく、接近して研究する学問的態度 |

問5 空欄aⅤに当てはまる語の組み合わせとして最も適切なものを、次の①～④の中から一つ選びなさい。

- | | | | | | |
|---|--------|-------|--------|--------|--------|
| ① | a すでに | b そして | c しかし | d いや | e ほどなく |
| ② | a ほどなく | b しかし | c いや | d すでに | e そして |
| ③ | a しかし | b いや | c すでに | d ほどなく | e そして |
| ④ | a そして | b すでに | c ほどなく | d しかし | e いや |

問6 傍線部ウ「話をシャチにもどす」のように、一度本題からそれた話題を元の本題にもどす時に使う四字熟語として最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選びなさい。

16

- ① 臨機応変
- ② 付和雷同
- ③ 我田引水
- ④ 朝令暮改
- ⑤ 閑話休題

問7 傍線部エ「背筋が寒くなる」という語句の意味を表す語として最も適切なものを、次の①～④の中から一つ選びなさい。

17

- ① 戦慄
- ② 嫌悪
- ③ 冷淡
- ④ 哀愁

問8 本文の内容に最も合致するものを、次の①～⑤の中から一つ選びなさい。

18

- ① 飼育下においてシャチの生を全うし幸福を保てる技術が、六〇年間の努力の末アメリカで確立した。
- ② 異質な他者に対して一方的に愛情を押し付けるのではなく、対象を理解しようとする努力が大切である。
- ③ たとえ善意とはいえ、人間自体がシャチの生存を脅かす存在なので、シャチの観察は止めるべきである。
- ④ 人間による重金属海洋汚染は、食物連鎖網の最低次にいる弱い生き物ほど高濃度でたまる傾向がある。
- ⑤ 人間に愛されて来たイルカですら、今や人間の領域を犯し、人間に危害を加える存在になりつつある。

(以上)